

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270200110		
法人名	社会福祉法人せんだん会		
事業所名	グループホームかがやきの園		
所在地	島根県安来市安来町960-1		
自己評価作成日	平成27年11月5日	評価結果市町村受理日	平成28年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [x.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=327](http://x.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=327)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成27年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設18年目になります。何よりも、ご家族とのつながりを大切に、ご家族と共に利用者の生活を支援できるよう心掛けています。入居前の生活歴をひもときながら、ご自宅での生活と同じように「できること」に眼を向け、ご自分の力を活かして生活していただけるよう支援しています。ご利用者の意向を聞きながら、地域に出かけたり、季節の食材に触れ共に料理し味わうなど、五感で季節を感じ外の空気を吸っていただくことを大切にしています。若い職員も、人生の大先輩であるご利用者から、漬物の仕方や、干し柿の作り方など生活の知恵を教えてくださいながら、共に暮らしています。また、カラオケや写真、ちぎり絵など、入居前に経験のない趣味にも、職員の声かけやフォローで挑戦される方もあります。毎日の暮らしの中で、音楽を積極的に取り入れ、心身の健康につなげています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎年、年度初めに4つの理念に基づいて具体的な支援方針を作り、専門研修や利用者の尊重、自己決定しやすい言葉かけができるロールプレイ学習を継続し、ケアに反映させている。家族とのつながりを大切に、利用者の状況やケアプランなどを細やかに伝え要望を聞いている。利用者の力を活かした支援に努め、職員と共に図書館に出かけ自分でカードを作る手続きをする人もあり、家族や関係者と話し合い見守りながら支援している。利用者は季節や外気を日々感じながら、自分のできることだけでなく新しいことにもボランティアの協力を得て取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度の初めに、理念に基づいた具体的な方針を管理者と職員で話し合い共有し、日々の関わりにつなげている。	年度初めに全職員で理念に基づいた方針を作り、施設内研修や担当者会議、朝礼などで話し合いケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方や中学生のボランティア、小中学生の体験学習の受け入れなどの交流を継続的に行っている。日常的に、近くの、商店や図書館などに出かけ、顔見知りの関係ができています。	日常的に外出し、散歩中の人とも顔馴染みになり気軽に声を掛け合っている。スーパーで毎年作品展を行ったり、図書館カード作って外出する利用者もあり地域の人との関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の事業所や当法人が中心に行っている認知症カフェに、事業所の職員が運営スタッフとして参加し、認知症ケアの専門職としての実践経験を地域の方々にに向けて活かせるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご利用者の暮らしの様子や、関わりを細やかに報告している。出席者から率直な質問、アドバイスやご意見をいただき、内容を事業所のミーティングで報告し、支援につなげている。	利用者や事業所の様子、活動状況などを報告し、出席者の思いや要望を聞いている。避難訓練の報告なども行い貴重なアドバイスを受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の研修や支援会議などには、都合がつく限り出席し、現場の実情を伝え、地域の民生委員様や他事業所の方々と、地域の直面している課題について、共に話し合う機会をもつようしている。	積極的に事業所の活動状況を伝え、課題についても相談しながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉による行動規制のないサービスをめざし継続的に取り組み、取り組みの振り返りや、改善をすすめている。身体拘束排除の取り組みについての施設内研修を毎年定期的に行い意識づけを行っている	施設内研修や日常の会議などで話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。一人で自由に階下に行ったり外出したりしたい思いのある利用者への対応を検討し、見守りながら行動を止めない支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に係る施設外研修への参加、施設内研修の開催などにより、全職員が学び話し合う機会をもち、職員同士が、ケアについて気づきを注意しあうなど、徹底して排除する仕組みを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外研修や職場内研修で管理者と職員が共に学ぶ機会を持っている。現在、成年後見制度等を利用されている方はいないが、必要なケースがあれば活用の支援ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にゆっくりと施設を見学して頂き、重要事項及び事業所の方針や退居を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。質問や、相談を受け、理解をして頂いた上で、契約に至っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の関わりの中や面会時に、ご本人やご家族の思いをゆっくり伺い、実現につなげている。介護相談員の方の来園や運営推進会議などで、外部の方を通じて、思いを伝えていただく機会も大切にしている。	家族とのつながりを大切にし、面会時や日頃の関わりの中で要望を聞いている。運営推進会議で出された要望、意見は担当者会議で話し合いサービスに繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回面談を行い、職員の提案や思いを聴く機会を大切にしている。毎朝・夕のミーティング、担当者会議や役職会、職員会では、職員から議案をあげてもらい、管理者も共に話し合いをし、改善につなげている	日頃から、思いや気づきを聞くよう心がけている。業務改善など、出された意見はミーティングや担当者会議で検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに職員自身の「自己目標」と、自分自身の「強み」を書き提出してもらい、それを土台に個人面談を行い、目標実現のための職場環境作りに配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に、より多くの職員の参加ができるよう計画している。新人職員に対しては、プリセプターがおり、きめ細やかな評価・助言・指導を行い、主任・課長等が、フォローしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者との情報交換やネットワークづくりの機会を持ち、積極的に交流し、サービスの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に、居宅や入院先を訪問したり、ご家族と共に事業所に見学に来て頂いたりして、ご本人の「望む暮らし」や、現状での「不安」などを聞き、利用に向けての信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にご家族のお話をゆっくり伺い、現状のご本人、ご家族の困りごとや不安などを共有した上で、安心してサービス利用開始をしていただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に、ご家族の利用者に対する思いや、事業所に期待すること・要望などを確認し、事業所としてどのような対応が可能であるか等を伝え、まず必要と思われる支援から始めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に、暮らす」という意識を職員全員がもち、日々利用者の思いや願いを汲み取り、共に季節をたのしみながら、暮らしている。生活の知恵や工夫を利用者から教えて頂く場面も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節行事や活動の計画を、都度、ご家族にもお知らせして、ご家族のご都合がつく限り、一緒に参加して力を貸して頂いている。他利用者のご家族と、利用者との馴染みの関係もでき、支援の輪が広がっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、暮らしておられた施設の顔なじみの方に会いにでかけられたり、近所の方が訪ねてこられたり、電話で会話をされるなど、懐かしい方々との関わりが継続できるよう支援している。	家族の訪問が多く遠方からも泊りがけで面会がある。生家への外出や家での畑仕事、年賀状書きなど、これまでの関係を大事にして支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他利用者との関わりが少ない方に対しては、職員が間に入り、橋渡しになり、気の合いそうな方との関係作りのフォローをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に変わられた利用者を訪ねたり、ご家族に近況を聞いたりなどしている。変わられた施設の担当の方から、排泄介助の言葉かけの仕方などについて相談の電話があり、アドバイスすることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、個々の利用者の思いや意向を聞き、担当者会議で共有し、実現できるよう支援している。思いをすぐに言葉にできない方には、きっかけづくりをし、思いを引き出せるよう努めている。	普段の表情や行動、これまでの暮らしぶりなどから思いや意向をくみとることに努め、担当者会議で共有し支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、居宅のケアマネなどから、利用前の生活歴や具体的な暮らしの様子、趣味や好み、こだわりなどを聞き、担当する職員全員が把握したうえで関わりができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調や心情などにより、ご本人の能力に違いがあると思われる。都度見極めながら、個別のケース記録をつくり職員間の情報共有を行い、その時必要な支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の思いを柔軟に反映した介護計画になることを心掛けている。作成者が担当者会議で提案をし、内容をチームで再検討した上で、丁寧に説明を行い同意を得ている。経過の報告も都度行っている。	作成者は利用者、家族の思いを反映した介護計画となるよう担当者会議で話し合い、作成後は利用者や家族に丁寧に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、活動面と体調面に分け記し、排便状況記録も次の担当者が一目で情報共有できる形に改善した。カンファレンス内容は、介護計画につなげ、経過評価も都度行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の都合がつかない通院介助や、買い物、遠方のご家族の宿泊受け入れなど、できる限り柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容院の方の定期訪問、地域の方のボランティア、近隣の保育園児の訪問、図書館やマーケットの利用など、日常的な地域資源の活用を積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望されたかかりつけ医となっている。どなたも、担当者が受診連絡票を作成し主治医に詳しく報告している。日々の体調変化により都度連絡相談をし、指示を受け対応している。	利用者、家族の希望のかかりつけ医を受診している。必要時には職員が同行し支援している。定期的な往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内のデイに看護職員がおり、日々の個人記録で状況確認をしている。急な体調不良や外傷があった場合など、速やかに対応し、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、日常の体調や生活の状況、ケアの内容などを、できるだけ詳しく情報提供し、利用者が病院で混乱されることがないように配慮している。入院中の面会やご家族との連絡を密にとり、回復時の退院に向けた受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向け、職員のスキルアップ研修を行い準備をしている。運営推進会議でご家族からの要望や質問も多く、都度、事業所としての能力や個別のケースによる対応力、ご家族の協力体制の必要性などを、伝え理解を求めている。	家族に対し事業所の方針を伝えている。現在家族から要望があるが、関係者と話し合いをしながらより良い対応の仕方を考えていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を計画的に行い、全職員のスキルアップに努めているが、経験の浅い職員も多く全職員が十分に身につけることはできていない現状である。特に、夜勤を行う職員の対応力アップを図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定をした避難訓練を利用者参加で行い、実施後、反省点をあげ、次の訓練に活かしている。具体的なマニュアルを、訓練の都度見直し、毎月初めの朝礼で職員全員で読み合わせをしている。	定期訓練の振り返りからマニュアルを見直している。毎月の定期点検項目に電気器具のコード損傷やコンセントの埃がないか追加した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝のミニ研修で、ご利用者に対する言葉かけのロールプレイを継続的に行い、日々のケアにつなげている。個室やくつろぎのひと時などプライベートにおける、声かけや関わりには特に失礼がないよう心掛けている。	職員は権利擁護や接遇の研修、毎朝具体的な事例を挙げて言葉かけのロールプレイをするなど研鑽に努め、利用者を尊重したケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難聴の方や、自己表現が難しい方など、それぞれのご利用者の状況に合わせ、わかりやすい言葉かけに心配りをし、自己表現や自己決定をしていただけるような場面づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の予定はあるが、体調や心情、好み等により、自由に参加していただけるよう配慮している。ご家族と外出されたり、職員と散歩に出かけられたり、その日その時の思いを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日ご自分の好みの装いで過ごされる。お好みの色合いのスカーフやブラウスなどを、誕生日にプレゼントしたり、一緒に買い物に出かけたり、おしゃれ心を持ち続けていただけるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食の汁作り、食器洗いなど、台所仕事を、職員と共に日常的にして頂いている。日頃、好みのメニューを伺い、季節の食材を使った献立に取り入れている。共に外食に出かけることもある。	盛り付けや、後片付けなど利用者の力を活かし一緒に行っている。職員も同じ食事を摂り和やかな場面作りをしている。希望のメニューを取り入れたり誕生日や外食など楽しめる場면을工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量を把握し、食が向かない方へは、食べやすい好みの一品を添えるなど、状況に合わせて対応している。一日を通して、適度な水分摂取ができるよう、多様な飲み物を用意し、細目にすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者個々の能力を活かした口腔ケアを行っている。同事業所内の顔なじみの歯科衛生士が、ミニ口腔ケア講習を行うなど、必要に応じ相談指導をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々のケアで、個々の排泄パターンを把握し、ご自分で可能なこと、少しのアドバイスが必要なこと、軽介助がいることなど、見極めながら、できる限りトイレでの排泄ができるよう支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しその人に合わせて必要な支援をしている。自己決定を尊重する言葉かけの工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方も多く、水分はもとより、繊維質の多い食材や手製のヨーグルトを取り入れるなど、食事内容を工夫している。個々の身体状況に応じ、楽しみながらできる運動をメニューを作り、すすめている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節ごとに、菖蒲湯、ゆず湯、ミント湯、リンゴ湯など、香りのお風呂をたのしんでいただいている。マンツーマンで入浴準備から関わり、ゆっくりと湯につかって頂いている。一人で入浴可能な方もある。	できるだけ夕方に近い時間帯で支援している。声かけから入浴まで同じ職員が対応し、安心して入浴できるようにしている。仲の良い利用者と二人で入浴する人もあり希望に沿って柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の良眠に向け、日中の活動支援に配慮している。夜間、不眠傾向にある場合は、室温や照度搔痒感、不安感、空腹感などを確認し、安心して休んで頂ける環境作りを努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は、最新の薬箋をファイルし全職員に周知している。処方変更の場合は、連携をとりながら利用者の状態変化がないか注意を払いながら支援している。服薬介助は、具体的マニュアルに添って行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭き、洗濯ものたたみ、汁作り、牛乳当番など、日々の役割を、それぞれのご利用者の能力や状況に応じ、お願いしている。ちぎり絵や、カラオケ、工作など、趣味のたのしみについても支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から、道の駅や桜・チューリップ見物、近くのショッピングセンターなどに、少人数で出かけ雰囲気や買い物をつたのしんでいただいている。ご家族が都合が良いときは、共に外出支援をしていただくことも多い。	少人数で出かける機会が多い。法人のデイサービスと連携し出かけることもある。利用者の希望を聞いて買い物に行ったり、朝食のパンを購入するなど思いに沿った支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのパン屋さんに出かけ、好みのパンを購入する方、近くのレストランに財布をもって出かけ自分で支払いをされる方など、職員の付き添いで可能な方には、積極的に自分で行っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の妹と自室の携帯電話で会話される方、年賀状で家族にむけ新年の挨拶をされる方もある。ご本人の暮らしや、近況がわかる写真入りの園便りを、季節ごとに送らせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、テーブルや椅子の位置、温度、湿度などに、特に配慮している。季節に合わせた壁の装飾をほどこしたり、季節の草花を生けたり、ときめきを感じていただける空間作りに努めている。	換気をこまめに行い気持ち良く過ごせるようにしている。ホールや廊下は観葉植物や花、季節に合わせた装飾を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に、つい立てや家具を置き、一人や少人数でゆったりと過ごせるスペースを確保している。馴染みの方同志で自然に集まり、くつろがれる様子が見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた筆筒や座椅子などを持参し、ご家族と好みに配置されている。自作のちぎり絵作品や写真、賞状などを飾り、雰囲気づくりもたのしんでおられる。仏壇を持参し、毎日手を合わせる方もある。	家具や仏壇、写真、手作りのちぎり絵など、家族と相談して持参してもらいその人らしい居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な方には、移動される際の導線を検討し、つかまることができる安定した椅子を置き、自然に使っていただいている。日常の活動が、安全にできるよう、ご利用者の状況に応じて環境整備を行っている。		